



「尚徳」 7月号 第598号 令和4年7月20日
鳥取大学附属小学校 学校便り
<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>



題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)

お陰様で、夏休みはすぐそこに

副校長 葉狩 学

現在、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が全国的に上昇傾向に転じており、本県においても感染力の強いB.A.5系統が急拡大し過去一番感染しやすくなっています。

さて、本年度も新型コロナウイルス感染症対策に努めながらの始業式と入学式で、令和4年度の学校生活が始まりました。感染状況を見ながら実施した「分散参観日」、3蜜状態の解消をしつつ低・中・高学年別で出かけた学年別遠足、感染状況が落ち着く中計画通り実施することができた6年生「旅の学校」等、学校行事をやる形で何とか実施できないかと、感染状況を見ながらタイムラインに沿って一つ一つ判断をして参りました。今年は縦割り班活動を再開し、交流学年を2学年に絞って活動する等工夫を凝らして行い、子供たちの笑顔と学年を超えた楽しそうな会話が聞こえてきました。しかしながら、現在4年生の宿泊体験学習「森の学校」は、感染拡大が続く中、延期の決定をした次第です。また、今年度は梅雨が短く暑さが厳しい日々が続き、新型コロナ感染症対策とともに熱中症対策にも取り組み、子供の安全を第一に考えた難しい学校運営でした。不審者対応の引き渡し訓練は附属小中学校合同で行い、課題を明らかにすることができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

子供たちの変化に目を向けますと、感謝の気持ちを伝える行動やあいさつの様子に大きな成長が見られました。例えば、運営委員会を中心に全校で取り組んでいるあいさつ運動を通じたあいさつを交わす姿、登下校時横断歩道で待っていただいた運転手への会釈、学習の成果に関連して、外国語活動や英語活動で取り組んでいるEye contact (相手の目を見て)・Smile (笑顔で)・Clear voice (はっきりした声で) のコミュニケーション活動は、感謝の気持ちを表す上で子供により影響を与えています。

本日、無事子供たちが夏休みを迎えられるのも保護者様のご理解とご協力をはじめ、多数の学校関係者様の支えがあつてのお陰と考えています。

今年の夏休みは39日間です。感染の第7波への対応で、リスクの高い現状が変わらない中にあるからこそ、それぞれが場面に応じた感染対策を講じる判断力と徹底した対策が必要です。2022年の夏、帰省や旅行、イベント参加などそれぞれの過ごし方を考えておられることと思います。夏休みは、お子さんが考えて行動する力を発揮する絶好の機会でもあります。それぞれのご家庭で過ごし方についてしっかりと話し合い、思い出に残る夏休みになりますことを心より願っています。そして、夏休み明け、元気な姿と笑顔で登校してくる全校児童一人一人に出会えることを楽しみにしています。



夏季休業中の主な行事

7月	4日(木) 学校保健委員会
27日(水) 鳥取市水泳大会	5日(金) 図書館開館日
28日(木) 鳥取市水泳大会予備日	10日(水) 図書館開館日
29日(金) 図書館開館日	11日(木) 山の日
8月	12日(金)～16日(火) 夏季一斉休業日
2日(火) 図書館開館日	23日(火) 図書館開館日

夏季休業明けの行事については、5ページをご覧ください。

夏休み作品展・運動会について

夏休み明けには、夏休み作品展、運動会と2つの学校行事が計画されています。どちらも保護者の皆様に来校いただくの行事です。

様々な行事を新型コロナウイルス感染の状況を見ながら安全、安心を考えながら実施をしておりますが、その中で、現時点でそれぞれの行事を次のように考えています。

○夏休み作品展

- ・9月10日(土)、14日(水)、15日(木)の3日間開催
- ・展示作品は、子供1人につき1点
- ・保護者の来校は、学校が休みの土曜日は各家庭2名まで、授業日の水・木曜日は各家庭1名まで(小学生以下は人数にカウントしない)。また、各家庭の来校日は1日とする。

○運動会

- ・9月17日(土)開催、予備日18日(日)
- ・午前中開催とし、昼食をはさまない
- ・保護者の来校は、各家庭1名まで(未就学児は人数にカウントしない)
- ・雨天、熱中症の危険度が高い日等の場合は、予備日に順延。19日以降には延期せず、保護者の参観なしで実施可能な形での開催とする。

※ただし、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、開催方法の変更や保護者の参観のさらなる制限も考えられる。

保護者の皆様にとっては、学校行事はお子さんのがんばりや活躍を見る数少ない機会であると思います。一方で、新型コロナウイルス感染の防止を図ることでお子さんや保護者の皆様の安全、安心を担保していくことも重要な観点であり、上記のような対応を取らせていただくこととします。なお、新型コロナウイルスの感染拡大は第7波に入ったとの報道もあり、今後の状況を注視していく必要があります。その状況によってはさらなる対策が必要となることもありますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

学校の様子

*** 児童会活動 ***

各委員会が学校運営に参画していく意識をもって取り組んでいる委員会。今回は、給食委員会、園芸委員会を紹介します。

給食広報委員会では、ホワイトボードに日々の献立を記入して校内に掲示し、全校に給食に親しんでもらっています。また、給食週間にはいろいろな催しをして、みんなが楽しめる活動をしています。

園芸委員会では、花の水やりや草取りなどをして、学校に花のある環境を作ってくれています。また、6月の委員会の話し合いで中庭の空きスペースを花壇にしたいという意見が提案され、先日花の苗を植えました。これからも花いっぱいの学校を目指しています。



*** わくわくタイム ***

1年生から6年生の縦割り班「わくわく班」で、月に1回のペースで昼休憩と一緒に遊ぶ活動を「わくわくタイム」と呼んでいます。新型コロナウイルスの感染拡大のため、一昨年、昨年と活動を自粛していましたが、今年度は感染の拡大状況を見ながらもできる形を模索しました。そして、活動する学年を絞って実施することにしました。

6月は、6年生と1年生が活動をしました。だるまさんが転んだ、ボール運びなど、6年生が考えた遊びを1年生に分かりやすく説明し、楽しく遊ぶ姿が見られました。7月は6年生、5年生、3年生で活動をしました。6年生が運営、進行をしながら、3学年で楽しく絵しりとりや伝言ゲームなどをして遊びました。まだ活動していない学年も、夏休み以降に活動する予定です。今後もコロナ感染の拡大状況を見ての活動になりますが、工夫をしながらできる形で実施していきます。



学校の様子

*** 給食試食会 ***

7月7日(木)、11日(月)に1年生保護者を対象に学校と懇話会の共催で給食試食会を行いました。今年度もコロナ禍の中での開催でしたが、多くの保護者の皆様に参加していただくことができました。食事中は親子で楽しくおしゃべりしながらというわけにはいきませんが、保護者の皆様には普段の給食時間の様子を少しでも感じていただけたのではないのでしょうか。また、給食のあとは栄養教諭の話聞く時間も設け、学校給食への理解を深めていただけたものと思います。



コロナ禍で学校に来ていただく機会が減っていますが、少ない中でも工夫をして学校の様子をお伝えし、学校と保護者の皆様がともに子供たちを育てていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



6月16日(木)に理科・図画工作科、6月30日に国語科・算数科・外国語科・音楽科、7月12日(火)に社会科、生活科、算数科(2回目)、外国語科(2回目)の校内授業研究会を行いました。授業を重ねるごとに個別最適な学びの具体的なイメージが明確になり始め、新しい形の授業への変容を感じる場面が多くありました。

校内の多くの教職員の公開研究授業が終わり、10月の研究発表大会に向けてそれぞれの教科・領域の研究が順調に進んでいることを確認することもできました。

6月16日、6月30日の授業の様子を紹介します。

《理科授業の様子》

6年生の理科の学習では、酸素50%、二酸化炭素50%の人工空気をつくり、この中でものが燃える理由を考えました。

理科の学習では、複数の観察・実験などから得た結果を基に考察をしたり、観察・実験などの結果を基に、予想や仮説、観察、実験などの方法を振り返り再検討したりします。その際に、これまで学習して得た知識(考察やまとめ)や実験のデータをどのように使い課題を解決するのかというところが個別で最適な課題解決に向かうと考えます。

今回の授業では、通常空気では0.04%しかない二酸化炭素が50%もあるのに、どうしてろうそくが燃えるのか理由を説明しようという課題をクリアするために、これまで学習して得た知識(考察やまとめ)や実験のデータを活用して説明する姿を期待していましたが、きちんと論理立てて説明しようとしている子供は少なかったように思います。実験や観察から考えられる考察をしっかりできるようにすると、今回のような課題でも自信をもってクリアできるようになるのではないかと考えます。



《図画工作科授業の様子》

6年生の図画工作科の学習では、「くるくるクランク」という軸を回転させることによって上下の動きが生まれる仕組みを使った工作の学習をしました。

図画工作科の学習は、どの題材でも一人一人が作りたいと思う作品に向かって工夫したり考えたりするという個別最適な学びが繰り返されていると考えています。そのためには基本的な道具の扱い方や技能を身に付けておく必要があります。

今回の授業では、自分が作りたいと思うクランクの形を考え、実際にどんな動きになるか確かめました。最初の授業で道具の使い方や針金の曲げ方などは学習していますが、今回の授業でも困ったときには自分で作り方の動画を何度でも見返し、目指すクランクの形に向かって活動していました。また、授業の前後に自分の活動のめあてを立て、振り返る時間を設定しました。自分の中での目標を立て、試行錯誤したことが今後の作品作りに生かしているか研究を続けていきたいと思っております。



《国語科授業の様子》



3年生国語科の学習では、物語を場面ごとに短くまとめたものをもとに、物語全体を通したあらすじを作る学習をしました。

国語科の学習では、言葉による見方・考え方を働かせる授業づくりのために学習課題に対して自分の考えをもち、全体共有を通して再度自分の考えを精査・推敲したり、資料や作品を作成したりします。そのような個で取り組む学習活動が個別最適な学びにつながる部分だと考えています。

今回の授業では、物語を1つのあらすじにまとめるためにどのような方法があるのかを考えた上で全体共有を経て、各自がその方法（見方・考え方）を使ってあらすじ作りに取り組みました。前時までに取り組んだ場面ごとのあらすじをどのような方法でまとめるかという学習課題に対する考えをロイロノートを活用して共有しました。前時までに使った「短くする」「言い換える」などは出てきましたが、似ている場面を「まとめる」や「つなぎ言葉を使う」などの視点は教師からの提案になりました。時間内にあらすじにまとめられた子供は3分の1ほどでしたが、「つなぎ言葉」「まとめる」「短くする」などの方法を使ってあらすじにまとめる活動に取り組みました。実践を終え、タブレット活用の必然性やめあての設定に課題が残りました。ねらいを絞って学習活動をシンプルにすることを念頭におき、「言葉による見方・考え方」が働く授業づくりを模索していきたいと思ひます。

《算数科授業の様子》



算数科では、昨年に引き続き探究学習に取り組んでいます。子供たちは学習課題に対して問いをもち、問いを探究し続け自分の納得のいく解を求めることとなります。今回の2年生の学習では、「4を4つ使って、0～4をつくれるのか」という問いからスタートしました。2年生にとって初めての探究学習となりましたが、タブレット端末を活用して集めた情報をもとに、「どうしてだろう。」「÷とはどういう意味だろう。」「() がつくると初めに計算するのか。」と子供たちなりに探究を進めていました。最後は、短時間でしたが発見したことを自分の言葉で伝え合ったり、考え方を練り合ったりすることができました。様々な制約はありますが、低学年でも探究できると感じました。

《外国語活動授業の様子》

外国語科では、「コミュニケーション能力を育成するための授業づくり」をテーマに学習を進めています。今年度は、授業の中でコミュニケーション活動を行う際に、個人の学びの時間（ステップアップタイム）を設けることで、子供たちのコミュニケーション活動がより円滑に行われ、能力の育成につながるのではないかと考え実践しています。

今回の4年生の授業では、「好きな曜日ランキング」を作ることを目的として、好きな曜日やその理由を伝え合う学習をしました。伝え合う活動に入る前に、個別最適な学びとしてステップアップタイムをとりました。子供たちは、タブレット端末に送られた曜日の歌を聞きながら口ずさんだり、やり取りの音声を聞きながら発話をしたりして、自分なりに考えながら練習をしました。その後のコミュニケーション活動の場面では、練習した成果がしっかり発揮できたと答える子供が多くおり、自信をもって活動することにつながっているのではないかと考えています。

今後も、子供たちの伝えたい、尋ねたいという思いを大切にしながら、楽しく相手を意識したコミュニケーション活動ができるような授業づくりを研究していきたいと考えています。



《音楽科授業の様子》



音楽科では、音楽づくりにおけるICTの活用をテーマに学習を行いました。今回の4年生の学習では、グループでのお囃子づくりに挑戦しました。事前の学習では、「秩父屋台ばやし」、「京都祇園ばやし」、「麒麟獅子舞」について分析し、かねや太鼓、笛、掛け声を使ってリズムやテンポなどを工夫することによって、様々なお囃子が構成されていることを明らかにしました。そこから、同じような音を作って、自分たちでテーマを考えてお囃子づくりをするのですが、今回はタブレット端末を使って疑似的にお囃子を創作、演奏することにしました。子供たちは直感的に操作し、自分の音と友達の音を重ねながら自分たちのお囃子を意欲的に創作することができており、私自身とても感心しました。今後も、様々な場面でICTを有効に活用する方法を追究していきたいと考えています。